

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成21年5月(2009年) No.5 2 1

<随想>

苦勞して作った「作品」の行く末

会長 合原一夫

このところ、8ミリフィルム時代から現在のハイビジョン時代までの数々の作品の整理を始めていますが、いつの間にか300作品もの多くに達しており自分でも驚いております。その1本1本に当時作ったときの思い出が詰まっています。簡単には捨てられません。ですが、もしも私があの人に召されて居なくなったら、これらの作品の行く末はどうなるか、家内がもし生きていたら、そう簡単には全部処分してしまうことも無いでしょうが、家内も居なくなったら、息子たちの時代になったら恐らく、これは親父の趣味でやっていたものだからと、さっさと処分してしまうに違いありません。

そういうことを考えますと、なんの為に整理し、フィルム作品をテレシネしたりVHS作品をDVにダビングしたり、バックアップで保存したり、苦勞しているのだろうか、ふと作業の手が止まります。

私達趣味人の作品は作っている時の楽しみであり、例会や発表会で見て貰うよろこびで作品の使命はほぼ終えてしまう様です。が一方、自分が動けなくなったとき過去の作品を振り返って思い出にひたることもあります。そのための整理し、保存しているとも云えましょう。

本当は後世に残したい貴重な映像は、何らかの形で保存して頂けるシステムが欲しいところです。その点では、日本を縦断する映像発表会に出品した作品は、千葉、広島、大阪の各地図書館で、更に大阪アマチュア映像祭に出品された作品は大阪市立中央図書館で保存され後世に伝えて頂く有り難いと思っています。

膨大な過去の作品を整理しながら、残しておいても誰も見てくださる人は居ないだろうなと思いつつ、バックアップをとったりDVDにしたり結構忙しい日々を過ごしている今日この頃です。

5月例会のお知らせ

5月例会は第4土曜日23日18時より、いつもの大阪市立難波学習センター(JRなんばOCATビル4階)にて開催します。季節もよく作品も多く作られていると思います。ぜひ持参してご披露して下さい。皆様のお越しをどうぞ。

撮影会参加は17名

来たる5月30～31日のOMC八日市の河川敷で行われる「大凧まつり」参加希望者は17名となりました。まだ参加費納めてない方は5月の例会日に会計へ納めて下さい。

■第25回日本を縦断する映像発表会は6月第2日曜14日12時より(開場は11時30分)

この発表会は日本アマチュア映像作家連盟会員で、コンテスト入賞作などレベルの高い大変参考になる作品が多数含まれていますので、会員諸氏はぜひ会場に来て頂きたいと思えます。なかには、どうかと思われる例会レベルの作品もありますが、元ベテランでも現在はウデが落ちたなあと思われる作品もまゝ見られますが、総じて見応えのある作品がそろっているのも事実です。但し、大阪で進んでいるHDVは、広島や福岡など地方で対応できないので通常のDV作品のみとなっています。又、時間の都合で1～2本カットせざるを得ないのも頭の痛いところです。

■予告：撮影会作品公開コンテストは7月例会日(25日)の午後1時半より例会場で行います。その予定で作品をまとめてください。

■予告：7月31日(金)18時30分より幹事会開催。秋のフェスティバル作品選定プログラム編成会議を行います。乞ご予定。

4月例会レポート

4月例会は第4土曜日午後25日午後6時よりいつもの難波市民学習センターにて開催。ゴールデンウィークを間近にひかえた新緑の季節、久々にお顔を見せてくれた田中氏、例会を待ちわびた仲間たちが集まり例会と二次会を楽しみました。

今月の司会は安居氏、書記、前田氏、上映係は江村、増池、河合の3氏、受付兼照明係は進藤、紙本の各氏の担当で会を進行しました。

■出席者：有村、石垣、井上、江村、岡本、上総、蟹江、河口、黒田、合原、関、進藤、田中、玉井、西井、錦、華岡、藤原、前田、増池、宮井、森田、森下、安居、山本、吉岡の各氏26名の出席と16本の作品が出品されました。

■上映作品(今月の記録と講評：前田世話役)

1. 紀州へら竿師(SD)

合原一夫さん

15分50秒

平成17年度のOMC撮影会のテーマ、紀州へら竿製作をその後数人の仲間と追いかけて撮影した作品。いわゆる出来るまで映画といわれる作品ですが、撮影会では見たこともない作業が続き興味を持って見せてもらいました。魚釣りの道具を越えた伝統工芸品製作の細かい職人芸を食い入りように見つめました。出来るまで作品としては素晴らしい映像です。製作行程が沢山ある中の一部ですので、撮影会参加者は十分に理解できますが、初めて見た人はどれだけ製作工程を理解してもらえらるだろうかと心配になりました。しかしすきのない見事な作品でした。

2. 卯月の長谷寺(W)

増池茂さん

6分05秒

桜の綺麗な長谷寺に行って写された作品。駅前風景から商店街、長谷寺へと定石通りに展開していきます。私なら極力人をいれずに寺院の建物や桜を撮りたいと思うのですが、作者は人を積極的に入れて撮っておられて良かったと思えました。BGMも映像によくマッチしていたと思います。途中で僧侶の読経のシーンがあります。このシーンは短いのですが、この前後にお経のSEを長く伸ばして、BGMをカットする方がよりお寺の雰囲気が出されたのではないかと、全編にBGMに流すよりかSEを効果的に使いたいと思えます。途中にお寺を見下ろす全景シーンがありますが、これをエンディングに持ってくるほうが余韻が残ったのではと思えました。

3. やすらい祭(W)

森口吉正さん

8分30秒

京都今宮神社の健康祈願の神事を撮られたものです。いつもながら作者のナレーションの「やすらい祭りが晴れなら今年の京都の祭りはすべて晴れ、もし雨ならすべての祭りが雨になるとか…」という名調子に引き込まれていきます。桜の花が散る頃に疫病神が病を振りまくので、それを鎮める為に、はなしずめの行事が行われ、それがやすらい祭りの始まりになったとか。拝殿に置かれた花笠の中をくぐると無病息災

がかなえられるとかで人気があるようです。次にカネ、太鼓、笛の鳴り物ではやされた優雅な踊りの輪のなかに巻き込んで神社の中に疫病神を封じ込めてしまうというものだそうです。いつもの通り作者の情感ある語り口と落ち着いた映像でよく雰囲気を描いておられます。

4. アンガウル島 (W)

山本正夢さん 10分30秒

パラオ共和国のアウンガル島に行かれたときの映像記録。隆起珊瑚礁から出来た島だそうです。南洋特有の海の青さと花が綺麗です。かつてはリン鉱石を日本向けに積み出していたようです。1914年から終戦まで日本の統治領だったそうで、日本の足跡が残っています。立派な石造りの鳥居等日本人の足跡があって印象的です。戦争の遺物も沢山あったそうですが、敢えて入れなかったそうです。かつての日本は大東亜共栄圏発展を目論んで南太平洋にまで拡張したことがこの映像で実感されました。作者お得意の逆光線を活かした美しい夕やけの情景が出てきて安堵しました。

5. 大阪城公園に春が来た (HDV)

有村 博さん 12分00秒

梅・桃・桜と撮影に3回も行って大阪城公園の花木を写してこられました。春といっても時期よって咲く花が次々と移り変わり綺麗な情景が展開して楽しめます。好天にも恵まれ青空をバックに綺麗な花が次々と開いて楽しめます。お城、櫓、土塀等歴史遺物を適宜説明されるので、12分は長く感じなかったと司会者のコメントがありました。

6. 東山花灯路2009 (HDV)

井上勝彦さん 7分27秒

作者お得意の自作DOFアダプターに50mmの35ミリカメラレンズを取付けて、2台のカメラでステレオ撮影されたとか、その内の1台分の映像をまとめられたもの。被写体が夜の映像なので、DOFアダプターを使っての撮影は大変難しかったそうです。光量の少ない夜間でのピント合わせは大変だったそうです。映像を見てもピントのしっかりした解像度のあるものと、甘いもののがあり、夜のDOF撮影の困難さを感じました。しかしDOF特有の被写体深度の浅さとやわらかい光の表現は味わ

いがありました。

7. YOSAKOI 2008 (HDV)

江村一郎さん 7分10秒

作者お得意のよさこいの2008年版作品です。毎年撮られるだけに常に新しい角度で新しい視点で描くことは大変だろうと思います。今年はローアングルの多用のようです。演者のドアップの映像で汗が滴りおちる様を押さえているのはさすがで、南国の暑さを感じます。ややハイキーな発色でこれまでの作品とは違う傾向を感じました。

8. 銀河狂想曲 (HDV)

前田茂夫(筆者) 6分45秒

昨年3月に惜しまれて去っていった、大阪-東京を結ぶ寝台急行ブルートレインの大阪駅ホームでのラストランの情景を描いたもの。ガラが悪い一部のファンの罵声に恥ずかしい思いをした筆者もファンの一人です。一部の大阪人の下品さが実に嘆かわしいです。手持ち撮影でカメラを動かし過ぎたのは反省点でした。

9. 遊園地の詩 (HDV)

宮井 健さん 3分18秒

みさき公園で映像詩撮りたいと考え撮影に出かけましたが、うまく行きませんでしたとのことで見せてもらいました。映像詩をねらうのにはもっと、逆光をうまく使って光と影を強調した印象的なアップシーンが沢山要ると思います。この作品は家族連れの楽しい遊園地の一日といえる明るい気持ちの晴れ晴れとする短編作品でした。ラストのイルカとダンスする飼育係の表情は楽しそうでこの作品を象徴していると思います。

10. 鬼の火祭 (HDV)

河合源七郎さん 11分23秒

国東半島に伝わる珍しい鬼の祭りを描いた作品。国東半島には古くから宇佐八幡の神さんと比叡山から伝えられた天台密教とが集合し48もの寺が建てられ独特の文化、六郷満山文化が開きました。そのなかの一つ天念寺で正月7日に行われる火祭りを撮影されました。鬼にもいい鬼と悪い鬼がいて、国東の鬼は仏の化身でいい鬼だそうです。大松明をぶっつけあったり、迫力ある映像です。愛染明王の化身である赤鬼や不動明王の化身の黒鬼が登場して参詣

者に火のついた松明で尻を叩くという手荒い無病息災の加護を施します。鬼の目と呼ばれる大きなモチの争奪戦でクライマックスを迎えます。狭いお堂の中大勢の参拝者や見物人に囲まれてよくも撮影されたものと感心しました。見ごたえのある作品でした。

11. 春長居公園 (HDV)

森田光春さん 6分19秒

長居公園にも綺麗な沢山の花が咲いているのを知りました。日にちを変えて3回も行かれたそうで、色とりどりの花を美しく捉えておられます。映像は綺麗でいいのですが、BGMに詩が入っており、曲のテンポも速すぎて合わないのでは。映像が自然な流れなのでBGMも自然な器楽曲のいいのではと思いました。

12. 天空の城竹田城 (HDV)

紙本 勝さん 11分50秒

20/5月例会で発表された「天空の城 竹田城」をその後更に4回も通って取材し完成された作品。この作品では雪のある冬から始まって春へと続き努力の跡がにじみ出ています。竹田城も文字通り天空に位置して素晴らしい城跡ですが、作者の城にかかる情熱も素晴らしいものです。350mも登山をし山頂の城跡を撮影するのは、よほどの体力と情熱がないと出来ないと思います。今回の作品は竹田城のある虎臥山とは離れた別の山にのぼり朝霧に浮かぶ城跡全貌を見せるカットがありますがこれは素晴らしいシーンでよく別の山に登って撮られたものと敬服します。この美しい山城築造にまつわる良民達の絶句するような苦労話には頭が下がりました。

13. 三十三間堂通し矢 (仮編) (HDV)

上総修一郎さん 15分40秒

三十三間堂通し矢の様子を描いた作品ですが、仮編集集中とのことで持参されました。定石どおり三十三間堂の紹介から始まって、通し矢の情景へと続きます。弓を射るカットが延々と長く続きますが、空中を飛ぶ矢、的に当たるカット、等々本編集では手際よく短くカットつなぎをされることと思います。最後に大会に出場したお孫さんが登場して作品制作の意図が判りました。やはりこのようなイベントは2~3人で撮影しないと難しいと思いました。再編集して

10分以内に縮めるとお孫さんの出場という記念すべき記録作品になると思いました。

14. 文殊さんに願いを (HDV)

進藤信男さん 6分38秒

桜井の大和安倍文殊院を撮られた作品です。645年に安倍倉梯麻呂が創建した寺だそうで古い歴史を誇っているとのこと。当時は法隆寺を模した七堂伽藍を備えた堂々とした寺であったそうです。魔よけ災難よけの神といわれた陰陽師安倍晴明公の誕生地です。多武峰「好楽寺」僧兵の襲撃で全山消失したとか。お寺同士の争いも想像を超える激しいものだったようです。しかし現在の文殊院はあらゆる願い事が叶うご祈禱の寺として信仰を集めています。なかでも知恵を授かる神様とかで、多くの受験生が合格祈願の願をかけています。静かな風景の中で淡々とナレーションが流れそつなく纏められた情感あふれるいい作品に仕上がっています。

15. 梅林に琴の音ひびく (HDV)

吉岡貞夫さん 6分19秒

伊丹の緑ヶ丘梅林で桜とお琴と野点を写されたもの。お琴の達人が道端に座って実に見事な演奏を披露されたのを撮影し、その曲をBGM代わりにされました。はじめの内はお琴の演奏を超アップを交えて撮られています。画面は野点へと移っていきませんが、BGMは素晴らしい演奏が続きます。美しい女性のお手前の手元の様子をアップで撮られています。ここでお琴演奏のアップと交互にカットバック風雨に編集したらお琴とお手前の一体感が生まれたのではなかったかと感じました。

16. 根来寺 (HDV)

蟹江利一さん 8分00秒

先月入会された方ですが、他所のクラブでの経験が豊富ですがにベテランらしいオーソドックスな作風で根来寺の由来から、今の様子まで丁寧にナレーションで説明されています。由緒ある立派なお寺であることはナレでよく理解できたのですが、お寺を拝観したご自分の印象を語ってくれたら、より印象深い紀行記になったのではないかと思います。